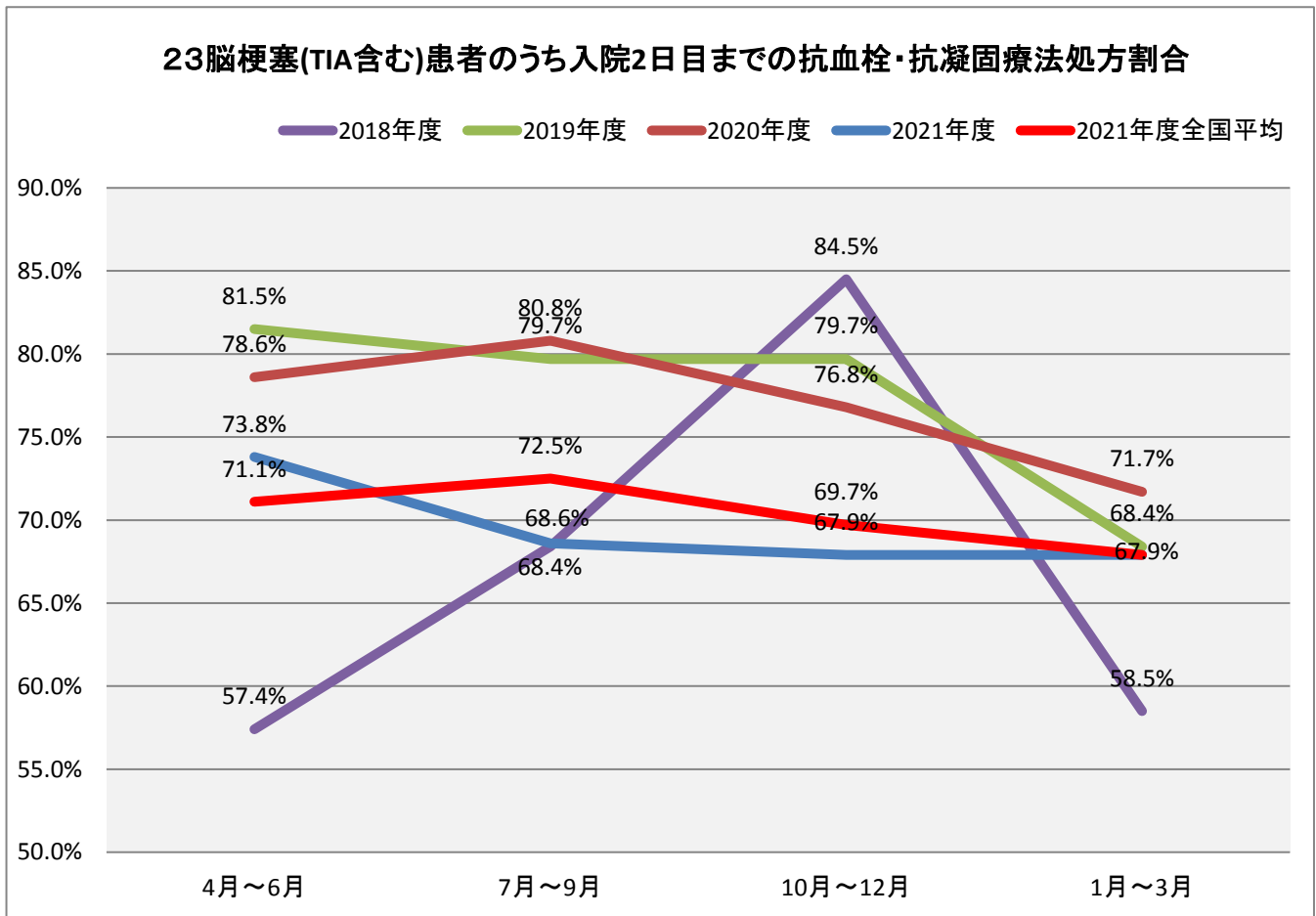


23.脳梗塞(TIA含む)患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法処方割合

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2021年度	73.8%	68.6%	67.9%	67.9%
2020年度	78.6%	80.8%	76.8%	71.7%
2019年度	81.5%	79.7%	79.7%	68.4%
2018年度	57.4%	68.4%	84.5%	58.5%
2021年度全国平均	71.1%	72.5%	69.7%	67.9%

(2)指標の説明

脳梗塞急性期における抗血栓療法として、発症48時間以内のアスピリン投与が確立された治療法となっています。海外の急性期脳梗塞治療ガイドライン2013では、脳梗塞急性期における抗血小板療法として、アスピリンを脳梗塞発症から24～48時間以内に投与することを推奨しています。したがって、適応のある患者さんには入院2日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法の投与が開始されることが望まれます。

(3)定義

分子:分母のうち、入院2日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法を施行された患者数
 分母:脳梗塞かTIAと診断された18歳以上の入院患者数